



Powered by  **HANKOOK**
driving emotion

 **Super Taikyu**
Japanese Endurance Race

 **ENEOS**

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022
Powered by Hankook 第2戦
NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース
#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS
2022年6月3日(金) ~6月5日(日)
富士スピードウェイ (静岡県小山町)

■ 文句なしのポルトウウィン！ 開幕戦に続く2連勝を達成 ■

第2戦のドライバーは服部、吉田、川合のレギュラー3選手と、86GB キャンプの地頭所選手。予選日の天候は曇。昼から行われた予選では、Aドライバー服部選手が1分52秒188のトップタイムをマーク。Bドライバー吉田選手も1分51秒074とトップタイムをマークし、合算タイムにより予選1位を獲得しました。予選1位に与えられる2ポイントを獲得し、まずは順調な初日に。Cドライバーの川合選手と、クラウンRSで初実戦となる、Dドライバーの地頭所選手も無事に走行を終えています。

決勝日の天候は曇。チームは4人のドライバーが交代しながら2枠連続で走る“ダブルスティント作戦”を立案。1枠の走行時間は70分程度で、ドライバーローテーションは吉田→川合→服部→地頭所の順。1枠目の終了時には給油のみの短いピット作業を行う他、ドライバー交代のピットインの際にはタイヤ交換も実施します。店舗メカニックは日勤班が7名、夜勤班が5名。20時から7時までが夜勤班の担当です。

15時に決勝がスタート。吉田選手は徐々にリードを拡大し、給油のためのピットインにより、一度は順位を下げますが、すぐにトップへ復帰。80周目に再び吉田選手がピットに入り、川合選手に交代。4位でコースに復帰しました。川合選手は88周目にトップに立つと、リードをさらに拡大。142周目から服部選手、さらに220周目から緊張した面持ちの地頭所選手が走行を担当しますが、ピットイン時も含め、一度もトップを譲ることなくラップを刻んでいます。

スタートから10時間が経過した303周目、地頭所選手がピットイン。吉田選手に交代し、ローテーションが一巡します。コースに復帰した吉田選手と2位の#15フェアレディZの差は約1分。この時点ですでにSC(セーフティカー)が2回出ていますが、10分間のメンテナンスタイムは未消化。チームはレースの半分、深夜の3時ぐらいに行うのがベターと考えており、慌てることなくその時を待ちます。そして深夜3時半ごろ、コース上にストップするクルマが発生。FCY(フルコースイエロー)が導入され、すぐにSC(セーフティカー)による隊列走行に切り替わりました。チームはこの機を見逃さずにメンテナンスタイムの実施を決定。吉田選手は362周目にピットへ戻り、頭からクルマをピットに入れます。夜勤班が目にも止まらぬ早さでブレーキキャリパーやローター、パッドを交換。さらに油脂類も交換します。時間内に作業は終わり、川合選手が乗り込み、再スタート。しかし、SCの隊列が戻ってきたため、川合選手はピットロード出口でストップ。1周分ロスしましたが、それでも2位の#15フェアレディZに1周差をつけて、トップでコースに復帰しています。

スタートから15時間が経過した446周目、服部選手に交代。サーキットはすでに朝を迎えていましたが、ピットイン時の点検やオイル補充も効果を発揮し、クラウンRSは順調そのもの。519周目からは地頭所選手が2度目の走行を担当。走行終盤には、#15フェアレディZがトラブルでコース上にストップし、2位は#39のRC350に。地頭所選手のリードは3周到り、十分なマージンを確保しています。残り約3時間となった602周目から吉田選手、さらに残り40分を切った676周目から川合選手が走行。そして、24時間が経過した695周目、トップでチェッカーフラッグを受け、開幕戦に続く2連勝を達成。チームスタッフ全員で川合選手を出迎え、ピットは歓喜に包まれました。

決勝結果 (ST-3 クラス)

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS
 (服部尚貴/吉田広樹/川合孝汰/地頭所 光)
決勝：1位 (695周、24時間02分49秒501)
予選：1位 (合算タイム3分43秒262)



DRIVERS VOICE

【服部尚貴選手】

何も起こらず、誰にも当たることもなく、本当にパーフェクトなレースでした。全員がダブルスティント、2 枠連続で走るといふ作戦を、最後まできっちりやれたと思います。4 人のドライバーは絶対に接触などが無いよう、気をつけて走ったのですが、それよりもクルマに何も起こらず、タイヤももってくれたし、いろいろな意味でパーフェクト。あまりにも何も起きないので最後のラスト 1 時間はすごく怖かったです。ここで勝つことが S 耐のチャンピオンをとる一番の近道ですから、そういう意味では今回の勝ちはすごく大きいと思います。

【川合孝汰選手】

チームが本当にいいクルマを用意してくれて、トラブルの不安もなく、24 時間を戦えたので感謝です。耐久レースの場合は自分がどう頑張るかというよりは、他の方と一緒に力を合わせて戦うことが大事なレースです。それをこの 3 年間で学んできたので、本当に落ち着いて戦えたと思います。タイヤとかに厳しい部分があるのですが、エンジニアの近藤さんが、タイヤの表面を見ながら作戦を練ってくれたので、そういう意味ではすごく安心して走れました。S 耐は 2 連勝です。24 時間をとれたのは本当に大きいです。

【吉田広樹選手】

トラブルなく 24 時間レースを戦えたのはなかなかないことです。本当に良かったと思います。レースの状況に応じて臨機応変に対応できましたし、結果的に完璧と呼べるぐらいのレースができたと思います。去年、レース中にエンジンやミッションを交換したので、不安がなかったわけではなかったのですが、エンジン担当の人も対応してくれていますし、チームも含めて去年の経験を活かしていたので、良かったと思います。今のところ 2 戦 2 勝しているので、今シーズンのいい流れができてきたと思います。

【地頭所 光選手】

ありがとうございます。安堵の気持ちで涙が出そうです。初めて耐久レースを経験したのですが、耐久レースはドラマですね。素晴らしいチームの一員として、表彰台に登れることになり、本当にうれしいです。木、金の練習時、ドライバー交代時にミスをしてしまうこともあり、不安で仕方なかったのですが、本番はノーミスでできました。先輩ドライバーたちのおかげだな、と思っています。夜の 1 回目は大変でしたが、昼の 2 回目は安定したタイムで走ることができました。機会をくださったチームのみなさんに感謝しています。

MECHANIC VOICE

サインボードを担当しました。自分で立候補し、GR86 のワンメイクに参加する予定だったのですが、運良く 24 時間に参加できることになりました。整備する内容と、整備のスピードが店舗とは異なりますね。作業時の時間配分や生産性など、お店に帰ったら活かせると思います。とても貴重な経験ができ、レースに来てよかったと実感しています。(Volkswagen 戸田公園・吉田竜也)

ST-3 クラス 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1 位	埼玉トヨペット GB クラウン RS(トヨタ クラウン)	695 周
2 位	エアバスター Winmax RC350 55 ガレージ TWS(レクサス RC350)	692 周
3 位	muta Racing LEXUS RC350 TWS(レクサス RC350)	690 周
4 位	Team Fukushima Z34(日産 フェアレディ Z)	647 周
5 位	岡部自動車 Z34 www.sato-ss.jp(日産 フェアレディ Z)	619 周
順位なし	raffinee 日産メカニックチャレンジ Z(日産 フェアレディ Z)	325 周

出走6台

ST-3 クラス ポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	77
2 位	39	TRACY SPORTS with DELTA	59.5
3 位	311	FKS team fukushima	41
4 位	63	TRACY SPORTS	39
5 位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	33
6 位	25	TEAM ZEROONE	9

参戦6台

PARTNERS

 赤城車体工業株式会社 akagi body industry Co.Ltd. http://akagibody.co.jp	 EMG ルブリカンツ合同会社	 株式会社エヌ・ティ・コーポレーション	 株式会社 FM NACK5
 株式会社岡崎巧芸	 株式会社カーグラス・JP	 株式会社カロツツエリアジャパン	 埼玉群スリーボンド株式会社
 株式会社三和広告社	 JU 埼玉オートオークション株式会社	 株式会社西武ライオンズ	 株式会社タンエイシャホールサプライ
 株式会社デンソーソリューション	 株式会社ドーム	 トヨタホーム東京株式会社	 富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社
 株式会社プロモーション	 株式会社プロモーション	 丸和工業株式会社	 Mechanix Wear LLC